

## 令和5年度トラフグ伊勢・三河湾系群資源評価会議 議事要録

令和5年8月1日(火) 13:30~15:40

場所：水産資源研究所横浜庁舎 講堂 および Microsoft Teams によるリモート方式  
参加機関数：15 参加者数：47名(会場：18名、リモート：29名、外部有識者2名含む)

### 【会議概要】

水産研究・教育機構の資源評価担当者より、令和5年度のトラフグ伊勢湾・三河湾の資源評価報告書案が説明された。本系群の資源評価については令和4年12月にMSY等資源管理基準値を提案しており、令和5年1月の資源評価結果説明会ならびに7月の水産政策審議会資源管理分科会資源管理手法検討部会において説明がされている。2022年漁期の親魚量と漁獲圧は各MSYを実現する水準の代替値に対し、両者ともに下回ると評価された。報告書の内容は会議での議論を経て承認された。

### 【要点】

外部有識者より最近行われた資源管理手法検討部会で議論された資源評価に対する課題について質問があり回答した。

外部有識者よりサーフネット調査地点数について、今後の評価継続のためにも追加を検討するようコメントがあった。そのほかFmsy proxyでの漁獲物の年齢構成の変化について質問があった。担当より、Fmsy proxyでの漁獲した場合にはMSY達成時の漁獲物は高齢魚の割合が増加すると回答した。

事業関係者からはVPAによる資源量推定値の信頼区間は不確実性の把握に重要で、評価報告書の冒頭の要約表でも示してほしいとの意見があった。要約表の変更が現状難しいものの、評価報告書補足資料2にノンパラメトリックブートストラップ解析で求めた90%信頼区間の推定結果を掲載したと回答した。

### 【外部有識者講評】

報告書が年々長くなっており、検討の結果とは思いますが、確認に時間を要する。事業関係者とよく議論しているはずだが、まだ各種会議を経ても納得されていないとのことだった。研究機関会議の取りまとめを見ていると、現在の方針は妥協の産物なのだろう。今後さらにデータを追加し、方向性が決まることを期待している。

充実したデータで行われているため、事業関係者から意見のあった年齢分解数を増やしてのVPAや1歳魚のDelury法の解釈の仕方など現場と話し合ってもらえればと思う。集団遺伝解析で東京湾との関係などがわかると、評価は大きく変わろうかと思う。そうした点、逐一情報共有いただきたい。